

1 国語

\*\*\* 開始の合図があるまで、開いてはいけません \*\*\*

試験が始まるまで、下の〔注意事項〕を読んでおいてください。

〔注意事項〕

- 問題用紙は表紙をふくめて8枚、解答用紙が1枚あります。
- 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 国語の試験時間は、45分です。
- 印刷の見えにくい場合のほかは、質問を受けません。
- ホッチキスは、はずしてもかまいません。
- 必要なものは、えんぴつ、消しゴム です。

※問いに字数制限がある場合は、句読点をふくみます。

□ 線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

①ユウビン局で切手を買う。 ②問題のカイゼン点を話し合う。 ③賞状をサズける。

④ユウエキなアドバイスをもらおう。 ⑤朗らかな性格。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ヒット曲「世界に一つだけの花」に、次のような歌詞がある。

「ナンバー1にならなくてもいい。もともと特別なオンリー1。」

この歌詞に対しては、大きく二つの意見がある。

一つは、この歌詞のとおり、(ア)が大切という意見である。世の中は競争社会である。しかし、何も(イ)にだけ価値があるわけではない。私たち一人ひとりとは特別な個性ある存在なのだから、それで良いのではないか。これは、もっともな意見である。

一方、別の意見もある。(ウ)で良いと満足しては、努力する意味がなくなってしまふ。世の中が競争社会だとすれば、やはり(エ)を指さなければ意味がないのではないか。これも納得できる意見である。

(オ)で良いのか、それとも(カ)を指すべきなのか。あなたは、どちらの考えに賛同されるだろうか？

じつは、生物たちの世界は、この問いかけに対して、明確な答えを持っているのである。生物の世界では、ナンバー1しか生きられないというのが**あ**則である。これが「ガウゼの法則」と呼ばれるものである。

旧ソビエトの生態学者ゲオルギー・ガウゼは、ゾウリムシとヒメゾウリムシという二種類のゾウリムシを一つの水槽でいっしょに飼う実験を行った。すると、水やエサが十分にあるにもかかわらず、最終的に一種類だけが生き残り、もう一種類のゾウリムシは\*駆逐されて、滅んでしまったのである。二種類のゾウリムシは、エサや生存場所を奪い合い、どちらかが滅ぶまで激しく競い合う。そのため、共存することができないのである。

ナンバー1しか生きられない。これが自然界の厳しい掟である。

競争社会とは言っても、人間社会の競争はずいぶんと緩やかなので、ナンバー2やナンバー3であっても、**い**メダルや**う**メダルで称えられる。**1**、厳しく競い合う自然界でナンバー2はあり得ない。ナンバー2は滅びゆく存在なのである。

やはり、オンリー1ではダメなのか。

そう考えるのはまだ早い。じつは話はそんなに単純ではないのだ。

自然界を見回せば、多種多様な生き物が共存して暮らしている。ナンバー1しか生きられないはずの自然界で、どのようにして多くの生物が存在しているのだろうか？

じつは、ガウゼが行った実験には、続きがある。

今度はゾウリムシの種類を変えて、ゾウリムシとミドリゾウリムシで実験を試みた。**2**、驚くことに二種類のゾウリムシは一つの水槽の中で共存したのである。

どうして、最初の実験ではゾウリムシは共存できなかったのに、この実験では二種類のゾウリムシが共存しえたのだろうか。

じつは、ゾウリムシとミドリゾウリムシとは、棲む場所とエサが異なるのである。ゾウリムシは、水槽の上の方において、浮いている大腸菌をエサにしている。これに対して、ミドリゾウリムシは水槽の底の方において、酵母菌をエサにしている。

**3**、同じ水槽の中でも、棲んでいる世界が異なれば、競い合うこともなく共存することが可能なのである。

これが「棲み分け」と呼ばれるものである。そうだとすれば、他の生物と激しく競争しあって、自分の居場所を確保するよりも、他の生物と争わないように、ずらしながら、居場所を探した方が良い。この「ずらす」ということが生物にとっては、重要な戦略になるのである。

ナンバー1しか生きられない。これが揺るがすことのできない自然界の**あ**則である。

しかし、自然界にはさまざまな生物がいる。つまり、それぞれの生物がそれぞれの場所でナンバー1なのである。すべての生物がナンバー1になれる場所を持っているのだ。この**①**ナンバー1になれる場所が、その生物のオンリー1なのである。

ナンバー1であることが大事なのか？ オンリー1であることが大事なのか？  
自然界が出した答えはもうわかるだろう。

〔注〕 \*駆逐…(敵などを)追いはらうこと。

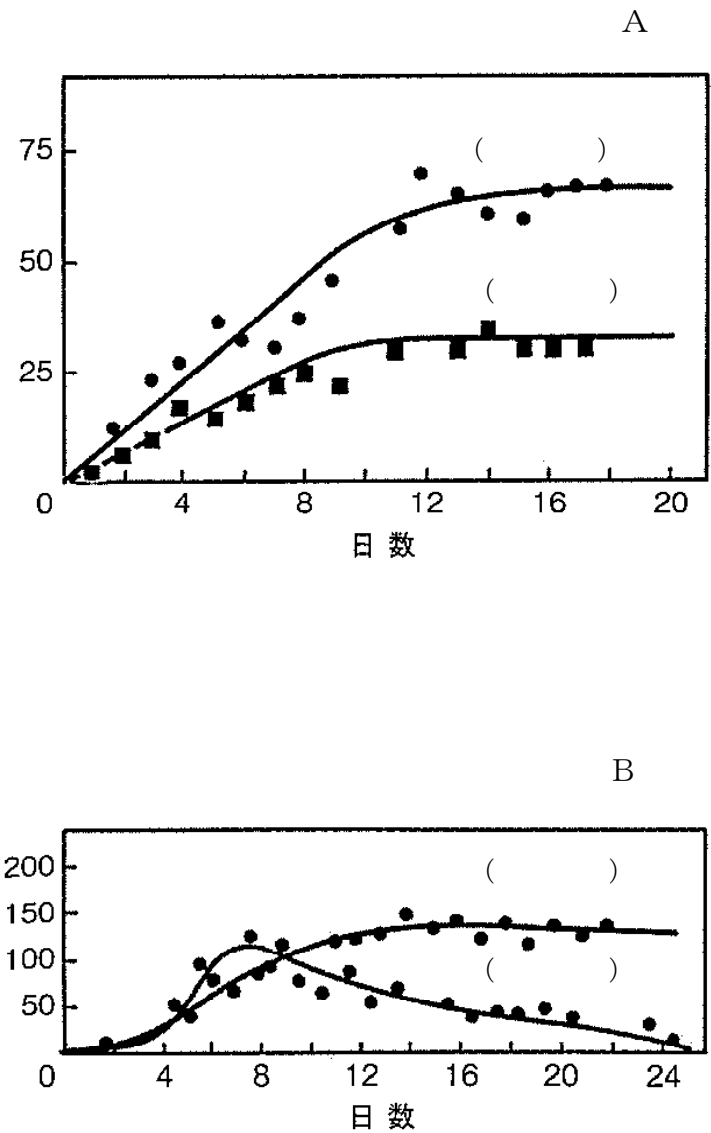
問一 (ア)〜(カ)には、「ナンバー1」か「オンリー1」、どちらかの言葉が入ります。(ア)〜(カ)のうち、「ナンバー1」が入る場所をすべて選び、記号で答えなさい。

問二 **あ**〜**う**には、すべて同じ部首を持つ漢字一字が入ります。それぞれ答えなさい。

問三 **1**〜**3**に入る言葉として最も適切なものを、次の**ア**〜**オ**からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア** つまり      **イ** すると      **ウ** または      **エ** さらに      **オ** しかし

問四 次のグラフA、Bは、本文中の二つの実験結果を示しており、横軸は日数、縦軸はゾウリムシの生存数を表しています。これについて、後の問いに答えなさい。なお、グラフは本文の出典元より引用した。



(1) グラフA、Bの空らんに入るゾウリムシの組み合わせとして最も適切なものを、次の**ア**〜**ウ**からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア** ミドリゾウリムシとゾウリムシ      **イ** ミドリゾウリムシとヒメゾウリムシ  
**ウ** ヒメゾウリムシとゾウリムシ

(2) 次の表は、それぞれの実験結果とその原因をまとめたものです。本文とグラフを参考にして、表中の空らん①〜④にあてはまる内容を、十字以上、十五字以内で説明しなさい。

原因	結果	
③	①	グラフA
④	②	グラフB

問五 — 線部①「ナンバー1になれる場所が、その生物のオンリー1なのである」とありますが、これはどういうことですか。説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア それぞれの生物が勝ち取った場所が、競争で生き残ったことを証明する唯一の居場所であるということ。
- イ それぞれの生物が活動している場所が、他の生物と競争しなくてもよい安全な居場所であるということ。
- ウ それぞれの生物が見つけた場所が、生まれてから死ぬまでを過ごす特別な居場所であるということ。
- エ それぞれの生物が生息する場所が、他と棲み分けることで見つけた自分だけの居場所であるということ。

問六 次の会話は、この本文を読んだ安子さんと梅子さんによるものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

安子さん…「世界に一つだけの花」という曲は、私の大好きな曲よ。特に、歌い出しの歌詞が素敵だと思うわ。  
梅子さん…あの曲では、ナンバー1にならなくてもよいと歌われていたけれど、生物の世界では少しちがうみたい。  
安子さん…そうね、筆者は（ 1 ）という自然界の決まりを、くり返しのべていたわ。でも、ゾウリムシの実験を通して、その決まりの本当の意味を明らかにしていたわね。  
梅子さん…ポイントは「ずらす」ということね。  
安子さん…そう。確かに考えてみると、自然界では「ずらす」例がいくつもあるわ。  
梅子さん…例えば、アフリカのサバンナに住むキリンとシマウマもそうかしら？ キリンは高い木の葉を食べるけれど、シマウマは草原の草を食べるわよね。  
安子さん…そうね、本文中のゾウリムシの「ずらす」例と全く同じではないけれど、それも「ずらす」例だと思うわ。  
梅子さん…他にも、鳥類のワシとフクロウは、どちらも森林の中で虫や小動物を食べるけれど、ワシは昼間に活動するのに対して、フクロウは夜間に活動するわよね。きっとこれも「ずらす」例だと思う。  
安子さん…梅子さん、よく知っているわね。それは（ 2 ）をずらした例ね。  
梅子さん…こうやって自然界ではさまざまな生物が共存しているのね。  
安子さん…そこまで理解できたなら、筆者が最後にのべている「自然界が出した答え」について、もう分かったかしら？  
梅子さん…すべての生物は（ 3 ） と言いたいのだと思うわ。  
安子さん…その通りよ、梅子さん。

(1) ( 1 ) ( 3 ) にあてはまる言葉を、それぞれ次の条件にしたがって答えなさい。

・ ( 1 ) は、本文中から十五字以内でぬき出しなさい。

・ ( 2 ) は、考えて答えなさい。

・ ( 3 ) は、あてはまる内容として最も適切なものを次のア～ウから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ナンバー1であり、オンリー1ではない。      イ ナンバー1ではなく、オンリー1である。

ウ ナンバー1でもあり、オンリー1でもある。

(2) — 線部「本文中のゾウリムシの『ずらす』例と全く同じではない」とありますが、安子さんはなぜこう言ったのでしょうか。二つの例を比べて、六十字以内で理由を説明しなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学四年生の時夫たちが日頃\*カンけりをして遊んでいる場所のとなりには、\*養老院がある。子どもたちは、養老院にはボケてしまった老人がたくさんいるといい、「鬼ばばあ、鬼じい」と呼んで近寄らなかつた。ところが、時夫はあるときから養老院の「トキ」というおばあさんと親しくなり、毎日のように遊びに行くようになった。

その日以来毎日、学校から帰ると時夫は養老院に遊びにいった。おばあさんがどつさり持っているおはじきや昔のお金、古い写真や思い出話は、冷蔵庫でひえているアイスクリームやバナナよりもっと魅力的だった。

ある日、①おばあさんが時夫を散歩にさそった。

「ホームの庭は、\*きょうちくとうがさかりだからね」

ほんとうに、ぼつとりと紅いきょうちくとうの花が、夏の日ざしの中で眠たそうに咲いていた。セミがうるさく鳴いている。

「たまには気をきかせなくちゃね」

時夫がきよんとんとしている、おばあさんはいかにも重大な秘密のように、

「ゆりこさんとげんさんよ」

と言った。時夫はまじめな顔で、

「へえ」

とこたえたが、なんだかふしぎな感じだった。おじいさんとおばあさんでも恋をしたりするなんて、時夫には思ってもみないことだったのだ。

その夜、晩ごはんを食べながら、お母さんが言った。

「あんまり食べないのね」

「きょうはおばあちゃんのところ、スイカ食べたからね」

「こまったわねえ」

お母さんは小さくためいきをついた。

「ごめん。これから気をつけるよ。夕方になったら、すすめられても食べない」

「食べものだけのことじゃないのよ」

「じゃ、なあに」

時夫がきくと、お母さんはお父さんの顔をみた。

「とにかく、養老院にばかり遊びに行くのはよしなさい」

それまでテレビで野球をみていたお父さんが言った。

「どうして」

「どうしてもだ」

友達になったのに行っちゃいけないなんてことあるもんか。時夫はふくれつつらをして、エビフライにかじりついた。夏休みも半分がすぎたころ、時夫がいつものようにおばあさんの部屋にあそびにいくと、階段の上にはげんさんが立っていた。白いランニングシャツから、やけた腕をこつこつとだして、やっぱりたばこをすっている。

②「もう、トキさんのところに行くのはやめた方がいい」

時夫は腹が立った。お父さんならまだしも、げんさんにそんなことを言われるすじあいはない。

「どいて下さい」

まっすぐおばあさんの部屋に歩いていく時夫のうしろ姿を、げんさんは階段の上にも立ったままみつめていた。ドアをあけると、おばあさんは窓のそばにすわっていて、時夫をみても知らん顔だった。

「こんにちは」

時夫があいさつすると、おばあさんはふかぶかと頭をさげた。

「おとといから、急にボケちゃったんですよ」

ひさしさんがあっさりと言ひ、おばあさんはぼんやりと、窓の外をみていた。時夫が③「信疑のまま立っていると、とつぜん、おばあさんがかん高くさげんだ。

「トキオッ。トキオじゃないか」

おどろいている時夫にしがみついたおばあさんは、ものすごいぎょうそうで髪をふり乱していた。

「やつとみつけたよ、トキオ。もうにがすもんか。ここから出しとくれよお、トキオ。死んでもいっしょだよね。友達だもんね」

ほそくてしわだらけの腕の、いったいどこにこんな力があつたのか、げんさんが入ってきておばあさんをおさえてくれたあとも、時夫はしばらく動けなかった。④「背中がつかれて、ひざに力が入らないのだ。部屋の奥では、ゆりこさんがお手玉をしていた。ひさしさんはおすもうをみている。

やっぱり鬼ばあだ。⑤「みんな鬼ばあと鬼じじいだ。

「ちきしょう」

時夫は、そうさけぶが早い駆けだしていた。こわくて、くやしくて、涙がとまらないのだ。目のすみで、きょうちくどうの花がゆれていた。

それから、時夫はカンけりの日々にもどり、青屋根のできごとは、誰にきかれても口をきつくむすんだまま、こたえようとしなかった。そのうちに、みんな青屋根のことは何も言わなくなった。学校に行き、学校から帰り、晩ごはんまで表であそぶ、いつもの生活がもどってきたのだ。いつのまにか、秋がきていた。

「時夫みーつけっ」

ゆたかの声がして、時夫は誰かがゆたかより先にカンをけつてくれることをねがいがながら、マンシヨンの植えこみからごそごそとはいだした。次の瞬間、時夫はびくんとからだをかたくした。前から、おじいさんが二人とおばあさんが二人、二人の看護婦さんにつきそわれて歩いてくるのだ。週に一度の散歩の日だ。⑥「時夫は、心臓がとびだしそうにドキドキし、ゆびさがぞわわとつめたくなつた。かくれたいのに動けない。おじいさんは、げんさんとひさしさんだった。おばあさんは、ゆりこさんともう一人、知らないおばあさんだった。

「やあ、トキオくん。ひさしぶりだね」  
ひさしさんが、片手をあげて言う。

「……はい」

時夫がやっとの思いで返事をする、ひさしさんはにっこり笑って、  
「こちらはイエさん。青森出身なので、\*出羽の花がひいきなんです」と  
と、うれしそうに言った。そのおばあさんは大がらで、\*ざんぎり頭だった。黙りこんでいる時夫の疑問にこたえるように、げんさんが言った。

「トキさんは、ちがう部屋にうつった」

時夫はほっとした。何だ、死んだわけじゃないんだ。そんな時夫の気持ちをみすかしたように、げんさんはやっとなんて、ごつごつした手をゆりこさんの背中にまわし、ゆりこさんをかばうようにして行ってしまった。ゆりこさんは、長い髪をあいかわらずおさげに編んで、小さな、しわくちやの紙袋かみぐるを持っている。知ってる。あの中にはお手玉が入ってるんだ。あの人はあれを、かたときもはなさない。時夫は、老人たちのうしろ姿を見送りながら、夏の日、きょうちくとうの咲く庭で、

「ゆりこさんとげんさんよ」

と言ったおばあさんの、いたずらっぽい顔を思い出していた。

T字路から、ひろしが走ってきた。

「時夫、何ぼーとしてんだよ。おまえが鬼だぜ」

「あ。うん」

もうすっかり日が暮れて、家々の窓から晩ごはんのにおいがしている。

「あ。うちハンバーグ。私いっちぬけたあ」

真理子がぱっと\*きびすをかえして走っていった。

「オレも、もう帰るよ」

時夫がそう言うと、

「何だよ、オニヤメかよ」

ひろしが\*不服そうに口をとがらせた。時夫はあいまいにごまかし笑いをして、ひろしとゆたかに手をふった。

その日はずっと、あの老人たちの姿が時夫の頭からはなれなかった。新しいルームメイトと楽しそうにしゃべっていたひさしさんを思い出すと、時夫はひどくいやな気持ちになるのだった。あんなにあっけらかんとしちゃってさ。それに、時夫は、げんさんとゆりこさんがよりそって歩いてきたのも気に入らなかつた。なぜだか、おばあさんがかわいそうな気がしたのだ。僕には関係ない。いくらそう思ってみても、気持ちはちっとも晴れなかつた。

次の日も、その次の日も、時夫の頭のすみに、おばあさんのことはひっかかかたままだった。ボケると、部屋をうつされちやうんだらうか。今度も、ルームメイトがいるんだらうか。ボケたら一人部屋になるのかもしれない。あばれるから、ろうやみたいな部屋かもしれない。時夫の胸にろうやの中にぼつんと一人ですわっているおばあさんの姿が、うかんできた。ぞつとして、頭をふり、いやな考えをおいだそうとした。

「いくぞーっ」

でこぼこのカンをめがけてゆたかが走ってくる。あ、オレ、鬼だったっけ。ゆたかがカンをけり、時夫はそれをひろうと目をつぶって十かぞえた。みんながかくれにいく足音がする。

「……七、八、九、十」

ぱっと目をあけると、秋の日がさしたキャベツ畑がへいごしに見え、その向うの青屋根の、はじっこ窓におばあさんの顔のぞいていた。おばあさんの目は、ぼおっと、無表情に、時夫をみつめている。

「オレ、ぬけるっ。ごめんっ」

かくれているみんなに聞こえるように思いきり大きな声でそう言うと、<sup>⑦</sup>時夫はへいをよじのぼった。

「鬼ばばあ」(江國 香織)より

〈注〉

\*カンけり……「かくれんぼ」に似た子ども遊び。カンを決まった位置に置き、鬼おにがかくれている人を探しに行く。鬼がかくれている人を見つけ終われば鬼役を交代するが、鬼がカンからはなれている間に誰かがカンをけることよって妨害ぼうがいできる。

\*養老院……高齢者こうれいしゃを収容して保護する施設。老人ホーム。

\*きょうちくとう……庭木の名。夏に赤色や白色の花をつける。

\*出羽の花……相撲取りすもうの名。

\*ざんぎり頭……髪を結ばずにそのままにしている髪形のこと。

\*きびすをかえして……引き返して。

\*不服……不満があつて、なっとくしていないようす。

問一 ― 線部①「おばあさんが時夫を散歩にさそった」とありますが、おばあさんがこうしたのはなぜですか。その理由をア〜オから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 時夫にきょうちくとうの花を見せてやりたかったから。
- イ 人がたくさんいて養老院の中ではゆっくり話せないから。
- ウ 外で冷やしているスイカを時夫に食べさせようと思ったから。
- エ 誰にも相談していないことを時夫だけに話そうと思ったから。
- オ 仲良しの老人二人の邪魔にならないようにしようと思ったから。

問二 ― 線部②「もう、トキさんのところに行くのはやめた方がいい」とありますが、げんさんがこう言ったのはなぜですか。その理由を三十字以上、四十字以内で説明しなさい。

問三 ― 線部③「□信□疑」について、□に共通して入る漢字一字を答えなさい。

問四 ― 線部④「背中がためたくて、ひざに力が入らないのだ」とありますが、時夫がこのようになったのはなぜですか。その理由を二十五字以上、三十字以内で答えなさい。

問五 ― 線部⑤「みんな鬼おにばあとお鬼おにじじいだ」とありますが、このときの時夫の気持ちはどのようなものですか。最も適切なものを、次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ゆりこさんやひさしさんが、自分がトキさんにどう接すれば良いかわからず困っているのに、助けてくれないことが恨めしく、頼りがいがないと思っている。
- イ ゆりこさんやひさしさんが、救いを求めているトキさんを全く相手にせず、好きなことをしているあつかましさを理解できないと思っている。
- ウ ゆりこさんやひさしさんは、つかみかかってきたトキさんを尻目しりめに普段しりめどおりにしていることが信じられず、みんなまともではないと思っている。
- エ ゆりこさんやひさしさんは、しがみついてくるトキさんがものすごいぎょうそうで自分を責めているのに、トキさんをかばっているのが許せないと思っている。

問六 ― 線部⑥「時夫は、心臓がとびだしそうにドキドキし、ゆびさきがぞわつとつめたくなった」とありますが、このときの時夫の気持ちはどのようなものですか。適切でないものを次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 老人たちが散歩のふりをして自分を捕つかまえにきたことが、とても恐ろしい。
- イ 散歩中の老人たちと顔を合わせたら、何か話をしなければならず緊張する。
- ウ 自分から養老院と距離をとったので、急に行かなくなったことが後ろめたい。
- エ 養老院に近寄らなくなって間があいたので、今さら再会するのは気が引ける。

問七 ― 線部⑦「時夫はへいをよじのぼった」とありますが、この部分の解釈について先生と二人の生徒が話しています。この会話について、後の問いに答えなさい。

安田先生…最後の場面で、「時夫はへいをよじのぼった」とありますが、何をするためだと思いますか。

梅子さん… A ためだと思います。時夫はトキおばあさんのことをすごく心配していたからです。

安田先生…心配していた様子は、どのようなところから分かりますか。

梅子さん…一人だけでろうやみたいな部屋にいるのではないかと思って、おばあさんを心配していますよね。

安田先生…なるほど。時夫は、おばあさんが仲良しの人たちから無理矢理引き離されたことが、かわいそうだと思っているのですよね。

梅子さん…そうだと思います。

安田先生…では「僕には関係ない。いくらそう思ってみても、気持ちはちつとも晴れなかった。」という心情であるのはどうしてだと思いますか。

梅子さん…それは老人たちが、トキおばあさんが部屋をうつされたことを残念がっているように見えないからだと思います。

トキおばあさんがいない状況でも、他の老人たちは楽しそうにしています。おばあさんは一人ぼっちなのに。

松美さん…私も梅子さんが言うことはよくわかるわ。ただおばあさんを一人ぼっちにさせたのは時夫でもあると思うけど。

梅子さん…どういふことか教えて。

松美さん…なぜなら、

B

からよ。だから「僕には関係ない」と思ってみても、

心の底には「自分にも関係がある」といふ考えがあるから、「気持ちはずっとも晴れなかった」のではないかと  
思ったのよ。

梅子さん…たしかにそうだね。といふことは、最後の場面の「へいをよじのぼった」といふ行動は、時夫の罪滅ぼしの気持  
ちからだったのかもしれないわね。

安田先生…そう考えると、そのときの時夫の気持ちがさらによくわかりますね。梅子さんも松美さんも、登場人物の心情に  
ついて深く考えることができました。

(1) 空らんAに入る言葉を考えて答えなさい。

(2) 空らんBに入る言葉を考えて、十五字以上、二十字以内で答えなさい。

問八 本文中の表現について説明した文のうち、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもたちの生き生きとした会話を多くえがくことで、老人たちが失ってしまった無邪気さを強調しようとしている。
- イ 鬼という語は、カンけりの鬼と老人たちをたとえた鬼との両方で使われており、ことばから受ける印象を重ねている。
- ウ おはじきやお手玉、おすもうといった、老人が好きなものが多く登場して昔の物語だといふことを表そうとしている。
- エ 登場人物の心情を表すことばがほとんど用いられず、若い少年の複雑な心情を読者に推測させる工夫がなされている。



